

10 ボランティア活動に参加する

ボランティアが、自分で準備すべきことは？

被災直後は、現地も混乱しています。まずは、災害ボランティアセンターのホームページを確認するなど、事前に現地の支援ニーズを確認しましょう。そして、宿泊先の確保や服装、道具などを自分でしっかり準備してから被災地に入りましょう。活動中は、「自分のことは自分でやる。被災地には負担をかけない。」が基本です。



ボランティアの装備



❶ 防災インフォメーション 寄付金も立派なボランティア

災害が発生すると、被災地ではたくさんのお金が必要になります。ですから、お金を寄付することは、被災地支援の大きな力となります。寄付金も、一つの「ボランティア」の形なのです。

寄付金は、被災者に手渡されるための「義援金」と、被災地で活動するボランティアやNPOなどの団体の資金となる「支援金」の2つに分けられます。ですから、寄付するときは、そのお金がどのように使われるのかを確認しましょう。それは、被災地のことを正しく知ることもつながります。

なお、個人からの義援物資の送付は、かえって被災地の負担になることがあります。地域によっては、義援物資の受入れをしていないところもありますので、まずは被災地方公共団体のホームページなどを確認しましょう。



11 覚えておきたい防災豆知識

長野県防災(ツイッター公式アカウント)のツイートから役立つ防災豆知識を紹介します。



長野県防災【@BosaiNaganoPref】

災害時の情報発信はもちろん、平常時から防災に関する情報の発信を行っています。

防災ダックも、もちろん登場します！



#カップ麺は水でもおいしく作れます！

防災ダックは、備蓄品のうどんを水で作ってみました。水を注いで45分。お湯より時間はかかるものの、災害時などでお湯を沸かせないときでもおいしく食べられることが分かりました。

暑い日に一度試してみるのはいかがでしょうか？

防災ダック「冷やうどんみたいでアリ」



#上雪(カミユキ)とは？

南岸低気圧により、中信や南信を中心に降る雪のこと。信州人独自の雪の呼び方で、日常会話でも登場。

名前の由来は諸説ありますが、上方(京都に近い方向)で雪が降るからだとか。

「今週は上雪が降るらしいよ」なんて話が聞こえてきたら、普段雪が降らない所でも要注意！



防災ダック活動中

懐中電灯にポリ袋を被せると、非常用の簡易ランタンを作れます。試しに様々な袋を使ってみると、白色ポリ袋が明るく感じました！

また、日常使いの場合、オレンジ色のポリ袋を使うとおしゃれな雰囲気が出ます。



#雪崩

最大で時速200kmものスピードで流れ下るため、発生に気づいてから逃げるのは困難。

斜面に画像のような現象が見られるときは、雪崩発生の危険が高いため、絶対に近づかないで！

ちなみに、スキー場では、営業前に人工的に雪崩を起こして被害を防止するそう。

